

# 官民連携による見守りシンポジウム

## ICTを活用した孤立防止と生活支援型コミュニティづくり



平成28年3月13日

岩手県立大学 社会福祉学部  
小川晃子

1

## 1. 背景

# 1. 背景【高齢者の社会的孤立】

表1. 北東北の人口動態－全国との比較

地域	人口総数 (人)	平成12年～17年 の人口増減数 (人)	平成12年～17年 の人口増減率 (%)	高齢化率 (65歳以上 人口割合) (%)	一般世帯数 (世帯)	65歳以上の 高齢単身世帯の割合 (%)	高齢夫婦世帯 の割合 (%)	総面積 (ha)	総面積 当たり 人口密度 (人/km <sup>2</sup> )	自殺者数 (人口10万 人当たり)
青森県	1,436,657	-39,071	-2.6	22.7	509,107	8.2	8.8	960,705	146.4	33.4
岩手県	1,385,041	-31,139	-2.2	24.5	479,302	7.6	9.2	1,527,881	89.3	32.2
秋田県	1,145,501	-43,778	-3.7	26.9	391,276	8.5	10.6	1,161,222	96.5	37.6
北東北	3,967,199	-113,988	-2.9	24.6	1,379,685	8.1	9.5	3,649,808	106.6	34.2
全国	127,767,994	842,151	0.7	20.1	49,062,530	7.9	9.1	37,286,654	342.7	24.4

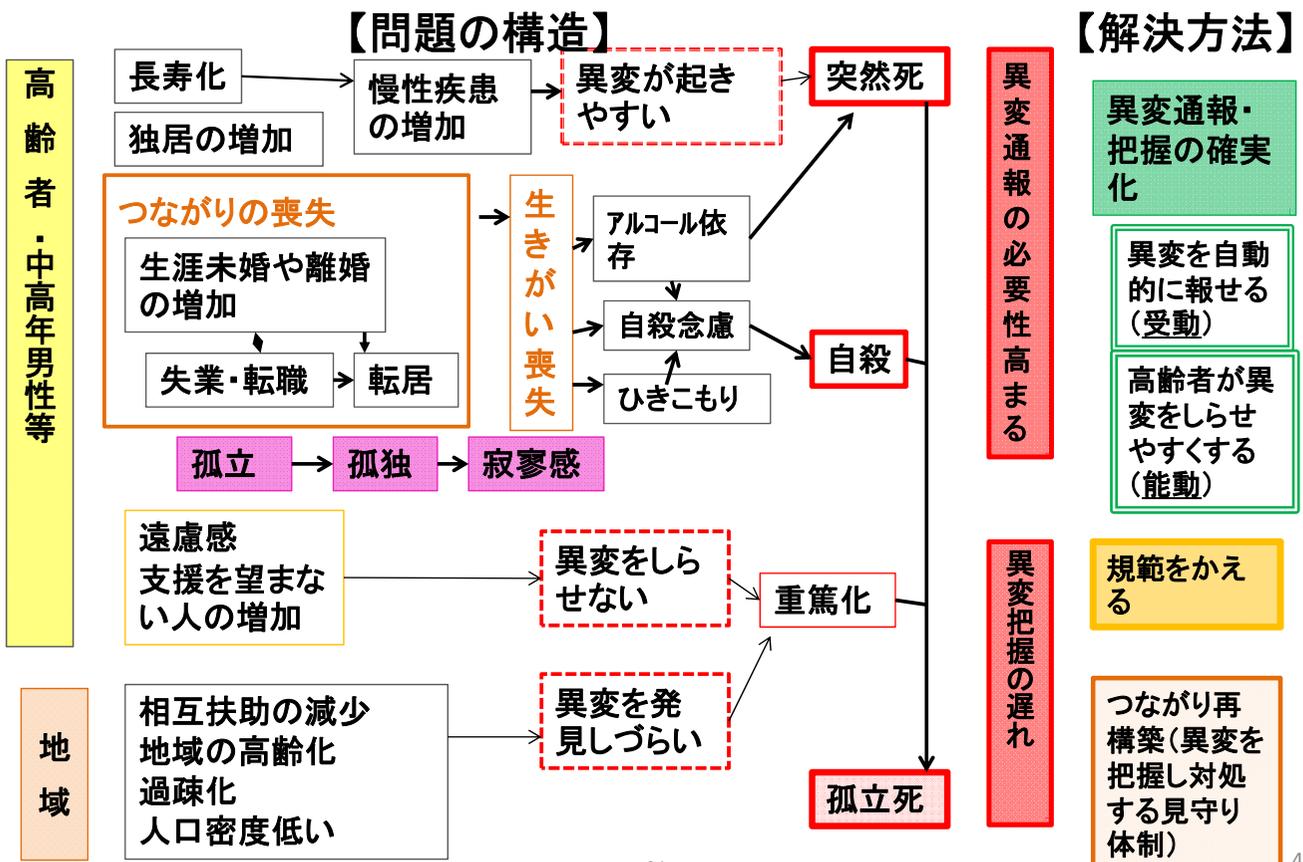
表2. 高齢者の遠慮感-支援が必要な場合に誰かにしらせるか

支援が必要な場面	しらせる	しらせない	無回答
頭痛・腹痛が続いたり、怪我をするなど身体の具合が悪い時	52.9	47.1	-
医者から短期間の入院を勧められた時	78.3	20.3	1.4
生活費に困った時	44.9	54.3	0.7
通院や買い物のために出かけたい時	32.6	64.5	2.9

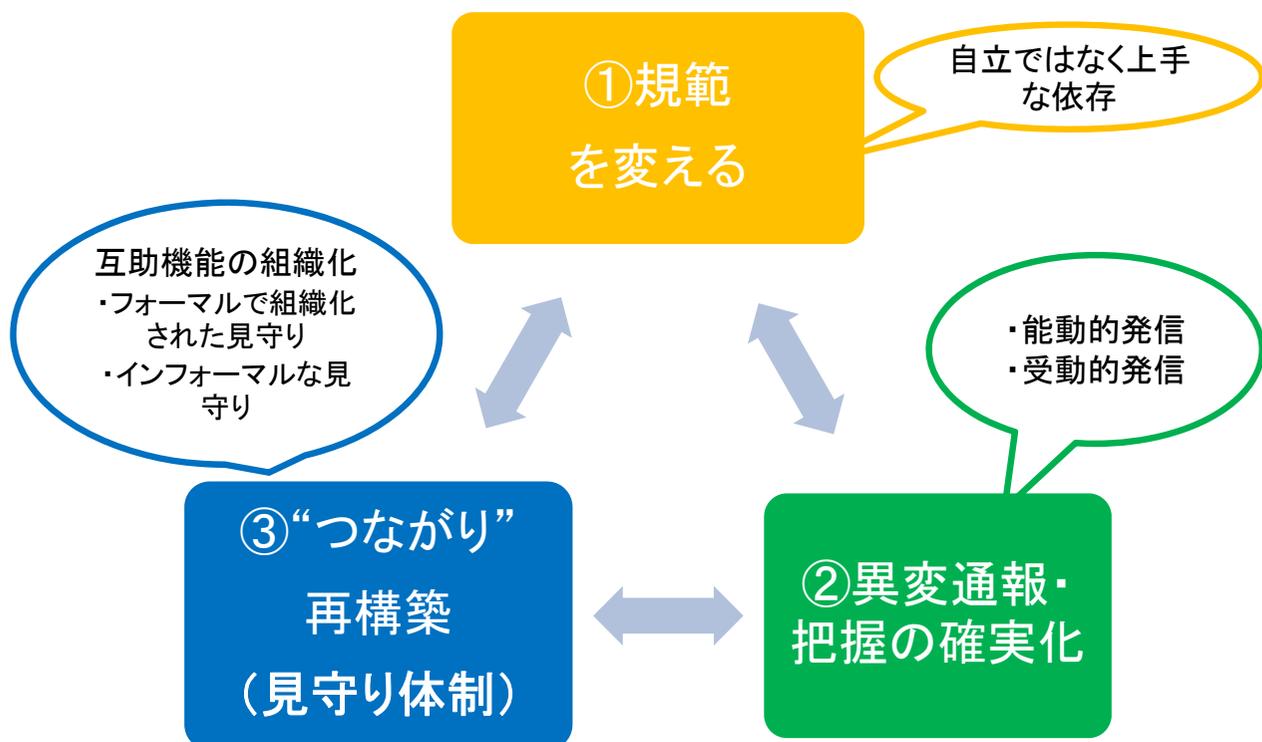
出典) 人口・世帯数は「国勢調査」平成17(2005)年、人口密度・自殺率は「人口動態調査」H19(2007)年

注) 数値は%。n=135。調査対象は岩手県川井村の満65歳以上の独居高齢者。調査実施時期は平成14年6月。  
出典) 小川晃子(編著)・岩手県立大学社会福祉学部「福祉開発調査実習報告書」。

## 孤立をめぐる問題の構造と解決方法



# 孤立死予防(異変把握)取り組み



5

## 2. 「見守り」とは

# 見守りの課題

## 【緊急通報システムの課題】



“お守り”？！

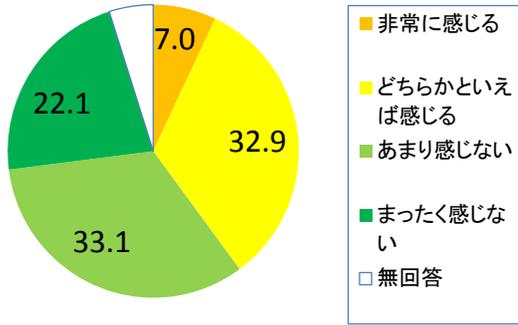


図1. 緊急ボタンを押すことへの遠慮感

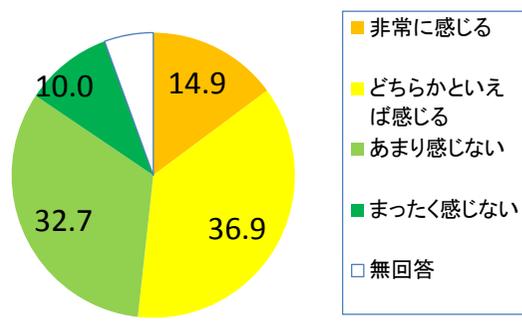


図2. 「いざという時に緊急通報システムを押せないのではないか」という不安感

出典) 小川晃子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月  
 注) 北東北3県の見守られている高齢者1,500人対象の調査結果 n=700:緊急通報システム利用者

# 見守りの課題

## 【適切な距離感を保ちながら、確実な異変把握】

“見張り”？！

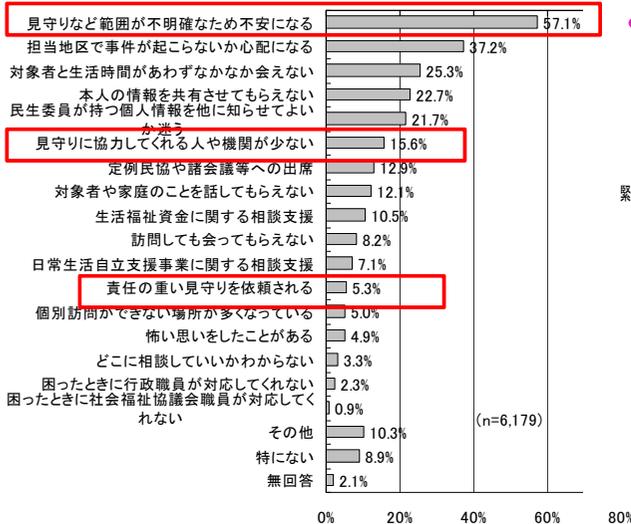


図3. 民生委員活動のなかで大変なこと

出典) 小川晃子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月  
 注) 北東北3県の民生委員皆調査結果 n=6,179

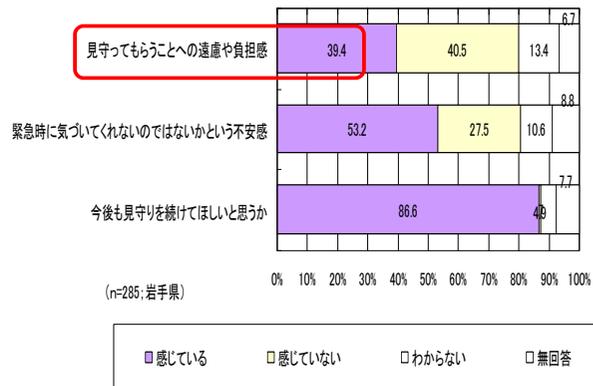


図4. 見守られる側の見守りに関する意識

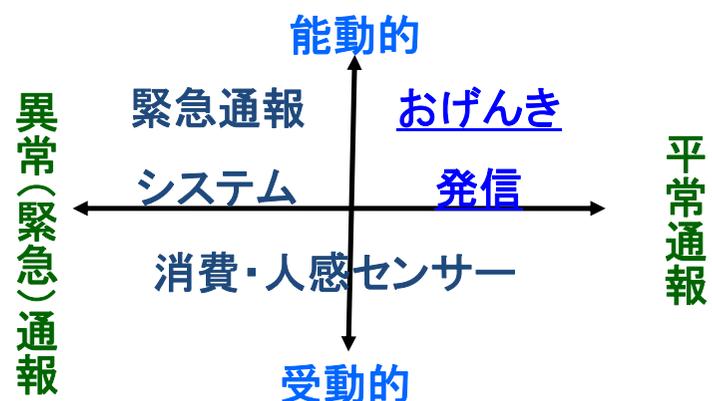
出典) 小川晃子他『高齢者の見守りに関する調査』岩手県社会福祉協議会、平成21年3月  
 注) 岩手県における見守られている高齢者の調査結果

### 3. 基盤となる「おげんき発信」、「生活支援型コミュニティづくり」の取り組み

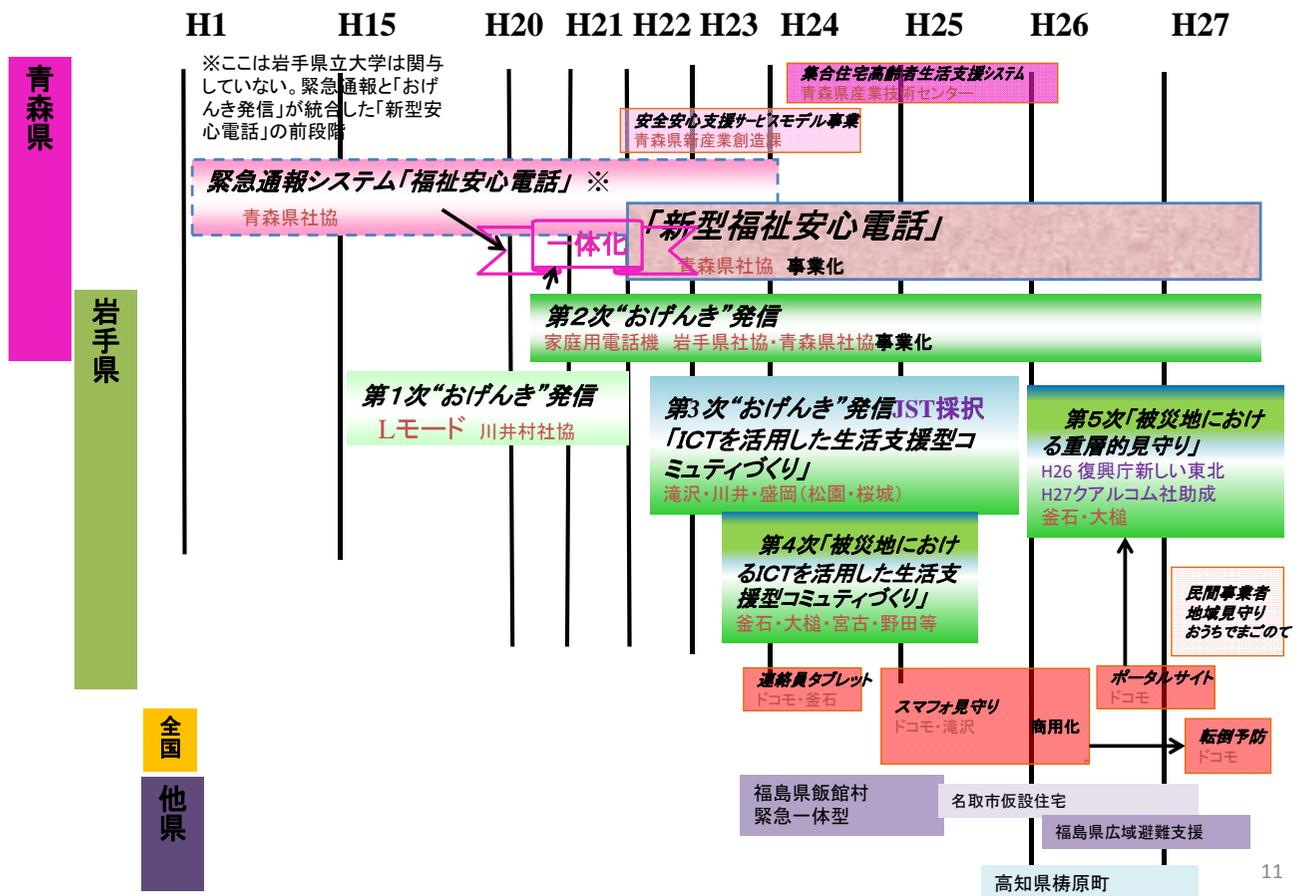
9

#### 基盤となる「おげんき発信」の取り組み

- 高齢者が能動的に「今日もげんきです！」と家庭用の電話機から発信する仕組み
- 岩手県立大学のプロジェクトが地域と連携し開発



# ICTを活用した見守りシステム取り組み動向



## 小学5年生社会科教科書に掲載

**社会を変える情報 -福祉と情報化-**

**調べる**  
お年寄りによって  
防災情報化とは、  
どのようなものでしょうか。

**お年寄りを守るシステム** 岩手県滝沢村に住むはるかさんたちは、「増加する日本のお年寄り」のグラフを見て話合っています。

「岩手県は、65才以上のお年寄りが人口に占める割合が全国より高いんだね。」  
「お年寄りが増えると、どんなことに気をつけなければならないか。」

そこではるかさんたちは、近くにある大学の小川先生のお話をうかがうことにしました。

**岩手県立大学の小川先生の話**  
過疎化や高齢化が進む地域では、一人一人のお年寄りをどう見守っていくかが、大きな課題です。わたしのつとめている大学では、県の社会福祉協議会と協力して、情報通信技術を活用したお年寄りの見守りシステムを開発しています。

はるかさんたちは、小川先生からいろいろ聞いていただき、滝沢村の社会福祉協議会をたずねて、「いわて“おげんき”みまもりシステム」について話を聞きました。

**社会福祉協議会の佐藤さんの話**  
このシステムは、お年寄りから1回1回お電話のボタンを使って自分からサーバーへ発信するしくみです。社会福祉協議会では、パソコン上で発信のじょうきょうを確認します。遠くに住んでいる家族に、発信したことを電子メールで転送することもできるので、家族へ安心することができます。

現在では、緊急時に通報する時にも使えるシステムや、センサーによってお年寄りの怪しを見守るシステムの開発が進められています。

12